


会議録

会議の名称	令和4年度第3回ふじみ野市地域福祉計画審議会			
開催日時	令和5年1月20日(金) 開会時刻 午前10時 閉会時刻 正午			
開催場所	ふじみ野市役所本庁舎5階 A大会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	山本 美香	事務局	岩崎 明央
	副会長	岡田 哲郎	事務局	角張 ちひろ
	委員	今野 悦也	社会福祉協議会	嶋村 武彦
	委員	市來 久美子	社会福祉協議会	植草 英二
	委員	金田 友記	ジャパン総研	地引 綾
	委員	當麻 俊輔	ジャパン総研	新橋 明奈
	委員	山城 いづみ		
	委員	小林 和恵		
	委員	小菅 友美		
	委員	村田 和也		
	委員	正田 実		
	委員	小泉 慎介		
会議の議題	(1) 第2回審議会のグループワークの結果共有 (2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための各種アンケート調査及びヒアリング調査の結果報告 (3) 各調査の結果報告に係る意見交換			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部地域福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和5年2月3日		
	記名押印 又は署名	役職名 会長 山本 美香 		
※自署の場合は、押印不要です。				

発言の要旨

発言者	発言の要旨
岩崎課長	<p>会議開会に先立ち、事務局より伝達事項がございます。 市では、開かれた市政を推進するため審議会等の会議を公開することとしており、本審議会についても、会議を公開することとなっております。 本日の傍聴希望者はありませんので、このまま会議を開会させていただきます。</p>
岩崎課長	<p>1. 開会 それでは、令和4年度第3回ふじみ野市地域福祉計画審議会を開会します。 本日の審議会委員の出欠状況でございますが、欠席の委員は奈良委員、柳川委員の2名で、出席委員は12名となっております。本審議会の総委員数は14名です。本日の出席委員数は、半数以上が出席されており、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第2項に基づく審議会の開催要件を満たしていることをご報告します。</p> <p>また、本日の審議会には、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第4項の規定により、ふじみ野市社会福祉協議会の職員、また第3期地域福祉計画策定のお手伝いをいただきます、受託業者の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の職員にも出席いただいておりますので、ご報告します。</p> <p>ここで、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p>
事務局	<p>(事務局より配布資料の確認)</p>
岩崎課長	<p>それでは、次第の「2. 議題」に移ります。 ここからの進行は、ふじみ野市地域福祉審議会条例第6条第1項の規定に基づき、山本会長にお願いしたいと思います。 よろしく願いいたします。</p>
山本会長	<p>2. 議題 (1) 第2回審議会のグループワークの結果共有 それでは、議題1「第2回審議会のグループワークの結果共有」について事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>(事前送付資料③④により、第2回審議会のグループワークの結果について振り返り)</p>
山本会長	<p>事務局から説明がありましたが、特に模造紙写真の左側にある文字というのが今回のグループワークのまとめとなります。 やらなければいけない項目はたくさんありますが、現在、審議会のみならずから将来的にこういうものが必要だということで出た意見としてまとめいただければと思います。</p> <p>では、今日はこの後の調査報告、及び意見交換の方に時間を割きたいと</p>

山本会長	<p>思いますので、前回のグループワークについては以上とさせていただきます。</p> <p>(2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための各種アンケート調査及びヒアリング調査の結果報告 及び (3) 各調査の結果報告に係る意見交換</p> <p>次に、議題2「第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための各種アンケート調査及びヒアリング調査の結果報告」について事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>(今回の審議会の位置づけ、今後のスケジュールについて説明) (報告書の内容についてはジャパン総研より説明)</p>
山本会長	<p>大変ボリュームの多い調査を的確にまとめていただきありがとうございました。</p> <p>今、ご説明していただいたところに加えて、みなさまが見ていただいご自分のご専門になるところだけでも結構ですので、何かお気づきの点、あるいは「自分はこう考えているけど、調査では違う」といった点など、何でもご意見いただければと思います。</p> <p>今日いただいたご意見を基に次の時に、骨子案を示して、それをさらにたたいてもらうような形で進めていければと思います。</p> <p>今回のアンケートでは、前回と比べて対象者が市の人口構成と同じようになっているという点をご承知おきいただければと思います。</p> <p>みなさんご意見ありますでしょうか。</p>
今野委員	<p>アンケート・ヒアリング調査の結果は全てごもっともな意見ばかりと感じました。全ての課題を私たちが解決するのは難しいですが、それぞれの分野、私で言えば町会活動で、報告書の中で特に感じたのは、P115の自治組織へのヒアリング調査の「自治組織活動の存続」という項目です。現在は新年度に向けた人事交代関係の準備をしているところで、自治組織の存続についてはヒアリングで出た意見のとおりです。この意見を踏まえても、自治組織活動の維持は非常に大変になっています。</p> <p>町会は民生委員や社協などさまざまな方とお付き合いをして活動していますが、P114の上から4番目の意見と自分の地域は逆で、常に民生委員や社協と一体になって状況把握しながら活動しているので、連携が取れていないという意見もあるんだなと思いました。</p> <p>活動している中で、自治組織活動をする人の高齢化や、役員等が輪番制で自分の番が来る前に辞める人・役員を断る人がいるなど、解決が難しい問題が多いです。</p> <p>コロナの影響でさまざまなことが変わってしまい、人と人が顔を合わせる、心を通わせる、会食のような場が全くなってしまいました。</p> <p>集まる機会をつくっても、深い会話までできずに終わってしまいます。今後、私たちとしても、今までの考え方を切り替えて活動をしていかなければと思っております。以上です。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p>

<p>市來委員</p>	<p>いつも自治組織の存続の難しさを今野委員から教えていただき、調査結果にも出ていますし、コロナでその難しさも露呈し、そのことが高齢者の引きこもりやセルフネグレクトへもつながっているのかなと思います。</p> <p>みなさま他に意見はありますか。</p> <p>先程、調査結果でご指摘のあった「民生委員が何をしているかわからない」といった意見ですが、風通しが良い地域と民生委員協議会、支部社協等はお互いの活動についてもよく見えていますし、課題についても共有をしてうまくやれていると思います。今野委員もおっしゃったように自治組織の加入率の低下とそれに加えてコロナの影響というものは地域活動にとって大打撃ですよね。</p> <p>第2期計画のまとめはコロナ前で、アンケートはコロナ禍で実施されたということで、結果についてはコロナの影響が尾を引いているのかなと感じました。</p> <p>世界的なパンデミックの中、また人生100年時代、地域共生社会とさまざまな観点がある中で、地域福祉の課題を見つけていかなければならないので、人と人をつなぐということが突出した問題ではないかと思います。</p> <p>ふじみ野市の自治組織への加入率の低下は悲しく感じるところですが、これは他の市町村も同じであろうと思います。これは高齢化の影響が大きいのではと思います。一方で、出生率の低下など若い世代への配慮もうまくやっていかないといけないのではと感じました。今回、中学生ヒアリングをやっていただいたということで、この部分をもう少し拡大して、若い人たちがどう思っているのか、希望を持った意見でふじみ野市は住みやすい地域であることを示せるようにやっていければいいと思います。</p> <p>また、民生委員として、より自治会との連携を持てるように、代表の方等と話し合いの場を持つなど風通しの良い活動をしていきたいです。</p>
<p>山本会長</p>	<p>重要なお指摘ありがとうございます。</p> <p>特に希薄になってしまった人と人をつないでいくことを核に、それを取り戻さないといけないと思います。</p> <p>もう一点ご指摘いただいた、若年世代をもう少しターゲットとしたあり方を考えないといけないと、未来がないのではという意見もおっしゃる通りだなと思いました。</p> <p>この点に関しまして、山城委員いかがでしょうか。</p>
<p>山城委員</p>	<p>子ども会の連絡協議会ということで、郷土かるたの大会を開催して、中学生に審判員をお願いし、中学生が一生懸命小学生に教えてあげている微笑ましい光景を見ることができていました。</p> <p>コロナの影響で大会はできないのですが、今年からは体験会を開催し、審判員も募集しましたが、参加してくれたのは数名でした。かるたを知っている世代も中学校を卒業してしまうので、また初めから審判員や参加者の育成をやらねばと感じています。</p> <p>報告書の内容で気になったのは、P10のヤングケアラーの認知度の間で、5割近い人が内容まで知っていて、これは国や県などが色々取り上げていることが影響しているのかなと思いました。</p> <p>昨年12月に地域共生社会展でのケアラーの研修会に参加しましたが、福祉関係の講演会や研修は参加者の年齢層が高い印象でしたが、この時は若</p>

<p>山本会長</p>	<p>い方も来ていました。子育て世帯のお母さんだったようで、最後の質問の部分で「自分は食事の準備をする時に、上の子に下の子の面倒を見させてしまっているのですが、この状態もケアラーになってしまうのでしょうか」と質問していて、ケアラー・ヤングケアラーといった言葉が広がりすぎて、通常家族間のお手伝いに関しても不安を抱いてしまうお母さんたちがいるのではないかと感じてしまい、そういうような心配を持つことが、お母さんのストレスになって、虐待に繋がってしまったらすごく困るなと思いました。</p> <p>情報の伝わり方を、もう少しわかりやすくというような解決していかないと、子育て世代で仕事もあり、PTAや地域のことなどたくさんを抱えている保護者の方たちが、言葉が広がりすぎることでもストレスを感じてしまうのではないかと心配になります。</p> <p>また、私は元気・健康プランの会議にも参加しているのですが、アンケート回答方法について、地域福祉計画ではWEBでの回答も採用しているということを情報提供させていただきました。ふじみ野市でもWEB回答ができるものが増えれば、市民も回答しやすくなるのではと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今回のアンケートの回答率が少し上がったのは、WEB回答の影響もあったのかもしれないね。</p> <p>言葉の認知度が上がることで認識できてなかった人がサービスや支援へつながることができるという点は重要ですが、一方で育児をするお母さんがその情報でストレスを受けてしまうという山城委員の意見については、私も気付かなかったのですごく重要なご指摘だったと思います。</p> <p>子どもや若年層へのつながりという点で金田委員いかがでしょうか。</p>
<p>金田委員</p>	<p>PTA連合会の活動を探り探りする中で、徐々にわかってきたのが、PTA活動について市内19校の中でも熱意を持っている方は一部ということです。保護者は働きながら忙しい部分はあると思うのですが、なかなか活動に積極的でなく、役員決め等もしようがなくやっているところもあると聞いています。</p> <p>色んな市のPTAの状況を聞くと、川越は事業者の人が多いという地域柄もあるためか会長等の役員をやりたい人が何人か出て、その中から選ぶという形をとっているそうです。他市と比べると地域柄というものもあり、熱意の差が出てくるのかなと思いました。</p> <p>現在、来期4月以降にふじみ野市のPTA連合会に入らないと言っている学校が1校、また、役員決め等が難しく、任意性で検討している学校が1校あると聞いています。東京都ではPTA活動をなくすという動きが出ていると聞きますが、私は、PTAは絶対に必要な組織だと考えています。</p> <p>熱意のある人の、PTA活動を楽しいと思う声が広がれば、時間はかかるとは思いますが、参加したいと思う人も増えるのではないかと思います。</p> <p>辞めてしまうのは簡単ですが、コツコツ続けていくことが大事だと思っていて、PTAだけでなく、自治組織等市内で行っている活動の見える化をしてつなげていくことができれば、色んな世代と一緒に活動できると思います。</p> <p>各々で活動するだけでは限りがあるため、来年度以降、現状で繋がっ</p>

	<p>ている活動以外に、もっと色んな活動が新しくマッチングできるようなことをやるべきではないかと思いました。</p>
山本会長	<p>前回のグループワークでも「活動の見える化」と「マッチング」について意見していただきましたが、この団体とつながったらPTAの活動はより良くなるといったアイデアはありますか。</p>
金田委員	<p>平和推進フェスのような、参加者の年齢層の高いイベントに市内の学校の吹奏楽部が来て演奏して、多世代の交流ができてるように、運動などを交えて、例えば、グラウンドゴルフとスナッグゴルフを合わせたりすることなどがいいのではないかと思います。</p> <p>また、みなさんが地域で行っている細かな活動を探っていけば、必ずつながる部分があると思います。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>せっかく地域ある資源を活かして、つなげていけばますます盛り上がっていただけるのではと思います。</p>
今野委員	<p>町会の活動は高齢層が多くなってしまい、子どもたちと接触していく機会は公園の清掃やラジオ体操程度です。</p> <p>学校との会議に出るために、町会の役員会で意見を募るが出ず、子どもたちと私たちの世代は何をしたら交流できるのか、案を出すのが難しいと感じています。その中で、お祭りは子どもたちと一緒に開催をするわけではないが、お祭り自体にはたくさん子どもが来てくれます。</p> <p>高齢者同士の関わり点でも課題があり、活発に活動していた老人会が全て解散してしまいました。活動できず、人との会話の機会がなくなり、私に直接連絡が来る方もいます。</p> <p>そういった人と子どもたちをどうにかつなげることができればと思っているのですが、何かありましたら教えていただければと思います。</p>
市来委員	<p>自分の地域も子どもが減り、子ども会も解散してしまう、でも地域の子どもたちのために何かできないかということで、町会の活動に参加してもらおうということで、手挙げ制で参加する「わくわく隊」を作りました。</p> <p>募集をかけると15組ほどのご家庭が出てきてくれて、コロナ前は季節に合わせたお祭りや、ラジオ体操など、年間の町会の活動に都合がつくときにお手伝いしてもらおうという形をとり、お子さんや高齢者の方、地域との交流が持てているのではと思います。</p> <p>学校運営協議会では、PTAの方も交えて、学校と地域がどんなことができるかということ意見を交換しながら、検討しています。</p> <p>また私は、地域活動に長く関わってましたので、色んな問題に対して、何かできないかと考えておりました、ぴんしゃん体操の後の時間に、誰もが立ち寄れる場所をとということで昨年11月から「立ち寄りカフェ」という形で、スタートしています。地域でのさまざまな問題について意見交換をしたり、悩みがある人の相談に応じるなどしています。</p> <p>こういったように、地域活動の中で、みんなで工夫をし、知恵を出しながらやっていくしかないと思っているところです。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>一度には解決できない問題が多いですが、少しずつ地域のつながりの場</p>

	<p>を作ってくださいているのですね。</p>
金田委員	<p>地域でのつながりの問題があるかと思いますが、自分が子どもの頃、地域対抗のソフトボール大会が楽しかった印象があります。子どもだけでなく広い世代が盛り上がっていましたが、今はそのような行事がないのが寂しいことだと思います。</p> <p>何かそういった、みんなで分かち合える目標・行事のようなものがないと、地域がつながっていかないのではと思いました。</p>
山本会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、公募市民の小泉委員いかがでしょうか。</p>
小泉委員	<p>お話を聞いていて、人とのつながりが何のために必要なのか見えてこない、つながりという言葉のイメージがボヤッとしているなど感じました。</p> <p>つながりって何だろうと自分なりに考えた時に、必要とされていることがわかると、つながりたいと思うのではと思いました。</p> <p>その中で難しいと思うのが、今は何でもスマホで解決できてしまうので、つながる必要がないという点です。これから便利になっていくと、どんどん人とのつながりの必要性がわからなくなると感じました。</p> <p>活動をマッチングするにしても、どの団体が何を必要としているか共有・発信していくことが大事なのではと思います。</p> <p>つながりという点では、各地区の広報誌のように誰もが見られるものに、中学生ヒアリングの模造紙を載せれば、誰もが中学生たちの声を聞くことができ、子どもたちにとっても自分たちの声が社会に届くというツールになり、声を届けやすい環境ができるのではと思います。</p> <p>P57からの自由記述の部分は重要だと感じました。中でもP60に人材育成の項目があるように、未来を担う子どもの意見を反映させることも大切で、それにより、つながるといふことの実感を持ってもらえて、ゆくゆくはつながることが当たり前と感じてもらえるのではと思いました。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>将来の地域を担う中学生たちの意見を広報誌のようなもので広めていくことが重要ではという意見もそうだと思います。また、必要とされているという感覚を市民が持つということが、なぜつながりを持たないといけないうのかという部分につながっていくというものおっしゃるとおりだと思います。</p> <p>では、青年部のお立場から、當麻委員いかがでしょうか。</p>
當麻委員	<p>青年部としては、昨年開催された産業まつりにはたくさん人が来たので、市が盛り上がるには、そういうものが増えるといいなと思いました。</p>
山本会長	<p>やはり、今回の調査でもあったように、イベントなど集まる場がなくなり、それを再起動させることの難しさが今あって、でもそういうものは単に集まるだけのものではないという意味が地域活動の中にはあるのだなと感じております。</p> <p>小林委員はいかがでしょう。調査では外国人の方に関する内容もありましたが。</p>

小林委員	<p>ふじみ野市でも外国籍の方が増えている中で、今回調査のP23の間（近所に支援が必要な人や気にかかる人がいますか）に「外国籍・外国ルーツの人」という選択肢を追加し、2.5%の人が関心を持ってきているという結果が出ていますが、P25の困っている家庭へどのような手助けができると思いますかという問いの回答で「できることはない」と選択している方もいるように、外国ルーツの人に対しては言葉の壁があり、なかなか声をかけられない、何をしている人なのかわからない・怖いといった先入観がまだあるのかなと感じています。</p> <p>私たちの団体に支援を求める方もとても多いのですが、ボランティアも時間に余裕がある時でないとは活動できなかつたり、ずっと同じ方を支援し続けるというのも難しい部分があります。地域で少しでも外国籍の方と関わっていただければとも思うのですが、言葉が通じるもの同士でも問題が沢山ある中で、外国の方の支援については、まだ課題があると感じています。</p> <p>中学生ヒアリングで「困っている人がいたら声をかけたい」という意見もあつたり、昨年さぎの森小学校が、ふじみ野市は外国籍の人が多いというのを受けて、授業で「日本のいいところ」という冊子を作って提供してくれて、外国籍の方が読んだり、私たちが行う日本語教室の教材にもしています。</p> <p>このようなことを通して、少しずつ「自分の地域には外国籍の人がいる」というのを知ってもらえるところから、うまく地域と関わっていければなと思いました。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>コロナの影響で外国籍の方にも色々な問題があつたかと思いますが、何が一番大変でしたか。</p>
小林委員	<p>やはり、コロナの影響で仕事がなくなってしまった方が、国などからの支援があつても、通知が読めなくて申請していないという方が多いです。通知が読めないというところからの支援が多いのですが、近所の方に「これ何？」と気軽に聞ける関係性ができればいいなと思っています。</p>
山本会長	<p>ふじみ野市には国際交流センターさんがいることが私たちの非常に大きな力になっていると思います。これからもよろしく願いいたします。</p> <p>小菅委員いかがでしょうか。専門職調査も見ていただいたと思うのですが。</p>
小菅委員	<p>大人の障がい者の方についての問題としては、8050問題が緊迫したものになっています。また障がいのある方が認知症の親の世話をすると生活が成り立たないのでサービスが必要となると、限られたサービスではまかないきれないという点で、国では地域生活拠点ということで、公的サービスで足りない部分は地域の力を借りると示されていますが、地域の方にそういった方のお手伝いをしていただくのは難しい現状です。</p> <p>やはり、障がいのある方の支援に一般の方が入ってくるのは難しいんだろうなという印象です。</p> <p>人材の面では、新しい人材が入ってこない現状で、福祉関係の大学も定員割れをしていて、少ない人材の中でどうしたらいいか苦慮していて、地域とも関わりたいが地域の方にも余力がないという状況です。</p>

山本会長	<p>私たちも地域にも貢献していきたいと思いますが、難しく感じてしまいます。発達障害が障がい者の枠に入るようになったこともあり、市内の障がい者は多くなっている印象で、引きこもりの方で年齢を重ねてから発達障害だと判明するという事象も増えているもの問題として挙げられます。</p> <p>報告書P48で福祉関係事業所を知らない人が半数以上という回答になって、知っている人をどうやって増やすのかということも大きな課題だと思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>障がい者の方というと施設にいらっしゃるという認識があるのかもしれませんが、実はそうでないですね。</p> <p>地域には、課題を持っている方もたくさんいて特別なわけでないという認識を持っていければいいですね。</p> <p>それでは、包括支援の面から、村田委員いかがでしょうか。</p>
村田委員	<p>支援をする際の面談で、P16のような近所の方との付き合いについて質問するのですが、「あいさつ程度」という方が多く、アンケート結果と合致していると感じました。</p> <p>一方でP17「近所の方と今後どの程度付き合いたいですか」間で40代以上の方が「会えば親しく話をする」という回答が多くなっていて、地域としては良い傾向なのかなと思いました。</p> <p>私たちも、アウトリーチするのに民生委員さんや近隣の方などから情報が非常に大事なのですが、P23の「近所に見守り等の支援が必要な人はいますか」の間に「いない」「わからない」という回答がとても多く、こういった会議の場では、支援が必要な方について多く話が挙がりますが、地域の方はまだ目を向けられていないのかなと感じました。</p> <p>P12の「地域に困っている人を助け合う気風があるか」という問の結果を見ると、「あまりそう思わない」という回答が多く、この結果を見ると、今後地域の助け合いというのは難しくなるのではと思ってしまいました。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>やはり、まわりにどんな人がいるかわからないという部分に関しては今後しっかりと考えていかないといけないですね。どんな人がいるかわからないと手助けのしようがないという部分もあります。</p> <p>では、正田委員いかがでしょうか。</p>
正田委員	<p>ハローワークでは、会社で病んでしまい、発達障害やうつになって辞めてしまう人の相談が増えています。</p> <p>さらに最近の傾向としては、70歳を過ぎてからハローワークに来る人も多くなっています。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>地域だけでなく、大学でも発達障害の学生が増えているという傾向があって、地域で生きていくという課題をもっと考えなければいけないと思いました。</p>

岡田副会長	<p>岡田副会長からも何かありますか。</p> <p>地域、人のつながりという部分が多く話されましたが、コロナの影響で、経済的な困難もあって、物質的にも心理的にも断ち切ったものが多く、人の考えも根底から変わった2～3年だったと思います。そういった思考の束を組み直していく第3期計画でもあるかなと重みを感じる時間でした。</p> <p>今の生活に合わせた新しいやり方で人のつながりをつくらないといけなわけですが、どんな人も自分らしく生きることだけで認められるような環境を求めているということと、このターゲットにはこういう選択があるというのも今回の調査で見えてきたと思います。</p> <p>今回の調査で外さないでおきたいのは、地域でたくさんある活動が、新しい住民、若い世代や孤立しがちな当事者へ届いていない、そういった人たちの入口を作り、その人たちが地域の担い手・主体になるといった流れをつくっていく第3期計画かなと思いました。</p> <p>私が気になったのは、住民と福祉のサービスや事業所との距離が隔てられている、福祉事業所やサービスの存在を知らない住民が多いということでした。また、色んな福祉事業所の人たちも孤立されていて、それぞれ求める連携の形も違うので、きめ細かくそこをコーディネートしていくのが肝になってくると感じました。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>社会福祉協議会の方からも一言ずつお願いします。</p>
嶋村事務局長	<p>今回の会議でさまざまなキーワードが出て、その中でも可能性があるのかなと感じたのは、今野委員のお話から出た「話したいという欲求がある」ということです。アンケート調査からは、「近所の方とはあいさつ程度の付き合いだが、今後は親しく話をする関係になりたい」といった要素、そして「マッチングの必要性」などです。出た要素を組み上げていけば新たな施策ができるのではと感じましたので、第3期計画では、要素を組んでいけば、地域とのつながりに対して何かしら見えてくるものがあり、検討されればよいなと思います。</p>
植草係長	<p>市来委員の話でありましたように、社協では、生活支援体制整備事業の委託を受け、第2層協議体を取り組んでいます。4圏域に分かれて地域の課題を検討しているのですが、必ず多世代交流をしたいという話が出てくる傾向で、どうやったら多世代交流できるのかという課題については、取組を進めている現状です。そのあたりも含めて、計画策定を進めていくと、今回出てきた意見に包括的に取り組んでいけるのかなと思いました。</p>
山本会長	<p>貴重なご意見いただきましてありがとうございました。</p> <p>みなさんからいただいたものをしっかり組み込んで第3期計画の策定を進めていこうと思います。</p> <p>議題の方は以上になると思うのですが、他に何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>(今後のスケジュール、次回審議会について連絡)</p>
山本会長	<p>では、最後に事務局からご連絡事項はありますか。</p>

事務局	(審議会委員報酬の振込予定等について事務連絡)
事務局	5. 閉会 それでは閉会にあたりまして、岡田副会長よりご挨拶をお願いします。
岡田副会長	<p>みなさん、長時間大変お疲れ様でした。</p> <p>今回このような調査結果が出てきて、これが第3期計画策定のよりどころになる基礎データになると思います。グループワークで前回やった議論と合わせて、何度もここに立ち返る帰着点になるのかなと思いました。</p> <p>ここで気を付けなければいけないのが、大事なのはパーセンテージや数だけでなくひとつひとつの声が大切ですので、各委員の立場でそれをどのように読み解いていくかということのをこれからもやっていくのと、アンケートで自由記述がたくさんありましたので、これを少し構造的に整理して、計画の骨子にしていくことも大切なのかなと思います。</p> <p>改めて、調査をやること自体が、人々の意識を高めるものになると感じました。委員だけでなく市民もこのデータを活用できるような働きかけであったり、行政職員や専門職の方にもしっかり読んでもらえるような働きかけをしてほしいと思います。</p> <p>今後ともみなさん頑張ってください。</p> <p>本日はお疲れ様でした。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、令和4年度第3回ふじみ野市地域福祉計画審議会を閉会いたします。</p> <p>みなさま、ありがとうございました。</p>